

2023年1月理事会議事録

日 時：2023年1月28日（土）14：00～17：10

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出 席：辻 秀人・大竹幸恵・佐藤宏之・足立佳代・足立拓朗・大坪志子・岡林孝作・亀田直美・黒沢 浩・小菅将夫・澤田秀実・高倉 純・田尻義了・谷口 榮・谷畑美帆・野口 淳・肥後弘幸・日高 慎・藤沢 敦・藤野次史・水本和美・溝口孝司・高麗 正、監事：都築恵美子・萩野谷 悟、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

欠 席：岩本 崇

進 行：谷口 榮

議 長：辻 秀人

谷口理事から、本日の出席者は25名（うち理事23名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

小菅理事から、岐阜県の宮崎光雄会員が2022年9月3日、東京都の野本孝明会員が12月20日、長野県の笹澤 浩会員が2023年1月7日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第708号 賛助会員に関する規定の一部改正について

谷畑理事から、賛助会員のうち学生会員の入会申請について対象者の拡大を目的に、「賛助会員に関する規定」第4条第3項の「協会正会員で指導を担当する教員の推薦を要する」要件を「研究を熟知している協会正会員（指導教員や共同研究を実施する者など）の推薦を要する」に改正したいとの提案があった。また併せて、同様に第6条(3)の「指導を担当する教員」を「研究を熟知している協会正会員（指導教員や共同研究を実施する者など）」に、第7条第2項の「推薦教員」を「推薦者」に改正し、学生会員の入会申込書（様式5）も推薦者及び推薦文の記入者を修正するとの説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

議案第709号 2023年度新入賛助会員の承認について

谷畑理事から、2023年度新入賛助会員の申込みは、2022年12月10日（土）及び2023年1月14日（土）に開催された入会資格審査委員会での意見交換の結果、フレンドシップ会員7名となった。なお、12月理事会報告第913号で説明した学生会員申込者1名については、再度の書類提出を依頼したところ正会員で再申込されたため、正会員の申込者として扱うこととしたとの説明があり、審議の結果、フレンドシップ会員申込7名について入会資格が承認され、総会に諮ることとした。

議案第710号 名誉会員候補の推薦について

大竹副会長から、1月21日（土）に名誉会員選考委員会を開催し、「名誉会員に関する規定・内規」に照らして選考方法を整理し、在籍53年で委員（現在の理事に相当）及び理事を歴任し、副会長を務められた木下正史会員を名誉会員に推薦するとの説明があり、審議の結果、原案通り承認され、総会に諮ることとなった。

議案第711号 2023年度永年在籍会員の顕彰に関わる対象者の承認について

大竹副会長から、「会員の顕彰に関する内規」第2条(1)に則り、2023年度の総会時に在籍年数が50年を経過する1974年度入会者25名を対象者として、第89回総会においてその功績を顕彰したいとの説明があり、原案通り承認された。

議案第712号 第89回（2023年度）総会議題案の承認について

野口理事から、第89回（2023年度）総会議題案の審議事項及び報告事項の提示があり、第3号議案の議案名を一部変更の上、承認された。

議案第713号 退会会員の承認について

小菅理事から、宮城県の*会員、秋田県の*会員、群馬県の*会員、埼玉県の*会員、東京都の*会員、神奈川県内の*会員、奈良県の*会員から2022年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

また、賛助会員ではフレンドシップ会員の*会員から2022年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。

報告第916号 第89回（2023年度）総会の概要について

田尻理事から、第89回（2023年度）総会の概要について、日程が確認され、①総会・公開講演会及び研究発表会については、対面参加とオンライン参加のハイブリッド方式で行い、発表者は原則的に会場である東海大学に来校して発表する予定である。ただし総会はオンラインでは視聴のみとする。②现阶段の新型コロナウイルス感染症の流行状況を鑑み、1日目の懇親会及び2日目の図書交換会は実施しない。③研究発表会は、口頭発表16件2会場、セッション9件5会場、ポスターセッション22件、高校生ポスターセッション10件であり、ポスターセッション・高校生ポスターセッションのコアタイム（質疑応答）は会場で実施し、オンライン上ではポスターのデータを掲載するとの説明があり、了承された。

報告第917号 2023年度宮城大会のホームページ開設について

藤沢理事から、2023年度宮城大会実行委員会から、協会の公式サイトによる案内とは別に、多くの人に会場参加を呼びかけることを目的にエクスカッション（見学会）や宮城県関連情報等の詳細な案内等を掲示する特設ホームページの作成要望があり、企画担当理事による打合せでは混乱のないように公式サイトと役割分担を明確にすることで承認したとの説明があり、了承された。なお、大会終了後の実行委員会ホームページの取扱いについては改めて検討する。

報告第918号 2023年度におけるアウトリーチ活動の実施計画について

大竹副会長から、2023年度のアウトリーチ活動について、今年度に引き続きオンライン上で「カフェde考古学2023」を2023年4月～2024年2月にかけて実施する予定であり、全6回の日程及び実施概要が説明され、了承された。

報告第919号 2023年度予算策定に関わる予算要求について

肥後理事から、各委員会から提出された2023年度予算要求書をまとめた各事業及び委員会の2023年度予算要求一覧が提示され、2023年度収入見込み額に対し予算要求合計額が大きく上回っていることから、各事業・委員会担当理事に増額理由の説明が求められた。今後は、今年度からの繰越収支差額で充足見込みではあるが今後の財政状況を鑑みて、各事業の増額理由等を確認・調整し、3月の理事会に予算案を提出するとの説明があり、了承された。

報告第920号 2023年度新入会員・第2回資格審査について

谷畑理事から、1月14日（土）に、委員長・副委員長及び担当理事による第2回入会資格審査委員会を開催し、第1回入会資格審査の正会員申込保留3名の再審査を行ったところ、うち1名は申込を辞退し、2名は資格基準を満たすと判断された。また、賛助会員の学生会員申込保留1名からは正会員での入会申込が提出されたため、協議の結果、本申込を受付けることとした。審査の結果、資格基準を満たすと判断された。よって、2023年度新入会員の入会資格審査は、申込総数34名、うち辞退者1名で、資格基準該当者は33名となり、3月上旬に全正会員に該当者の名簿を送付するとの報告があった。学生会員から正会員への入会申込の変更については、期日までに一度申込がされており今後の手続きに支障がないことから、受付けることが確認され、了承された。

報告第921号 会費高額滞納者への催促分担について

谷口理事から、現段階で3万円の高額滞納者48名の報告があり、各理事が分担して督促に当たることとなった。

報告第922号 各委員会等における2022年度会議等報告について（その5）

1 機関誌編集委員会の報告

黒沢理事から、1月9日（月）に編集委員会をオンラインで開催し、①日本考古学協会賞優秀論文賞への推薦論文の選考を行った。②「機関誌『日本考古学』編集委員会規定」第6条の査読委員に関する規定について、現状に沿うように改正案を検討した。③『日本考古学』第56号の投稿状況を確認した。④第57号から新たな試みとして特集を組むことについて、第57・58号の特集内容を協議したことが報告された。

また、機関誌の販売を委託している吉川弘文館と協議し、①J-STAGEへの機関誌の第25号以降の搭載にあたり、5年の販売期間を経過したものについてはオンライン上での公開を可能とすることで合意し、今後の契約書に反映していくこととした。②抜き刷りをPDF化して配布した場合の販売への影響について確認したとの説明があり、了承された。

なお、J-STAGEへの掲載には著作権法上の課題もあることから、著作権についてはワーキンググループを組織して行う必要のあることが確認された。

2 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

藤野理事から、2022年12月10日（土）及び2023年1月7日（土）に幹事会を対面とオンラインのハイブリッド方式で開催し、①港区高輪築堤跡について、谷川章雄会員から現状について伺い、引き続き今後の展開に注視し速やかに対応できるようにする。②広島市広島城跡の開発計画について、要望書を提出予定である。③文化庁との懇談における内容について協議したとの報告があり、了承された。

3 『日本考古学年報』75（2022年度版）執筆予定者について

大坪理事から、『日本考古学年報』75の執筆者一覧が提示され、執筆依頼状況が報告され、了承された。

4 研究環境検討委員会の報告

日高理事から、1月17日（火）に委員会をオンラインで開催し、①研究倫理部会から今後の予定の説明を受けた。②担当したカフェde考古学第6回についてアンケート結果を確認し概ね好評だったものの、参加者数に対して回答率が低かったためアンケートの実施方法の検討が必要であることを確認した。③2023年度のカフェde考古学の担当回の内容について協議した。④第89回総会におけるポスターセッションについて検討したとの報告があり、了承された。

5 広報委員会の報告

野口理事から、1月23日（月）に委員会をオンラインで開催し、公式サイトリニューアルの参考見積りを受けて詳細な内容を検討したとの説明があった。現行サイトにリンクしている過去の旧サイトにセキュリティ上の問題があること、また現行サイトに作業が必要な項目があるなどの課題により、想定より高額になったことを確認し、現行及び旧サイトの精査の必要性や今後の日程について協議したとの報告があり、了承された。意見交換が行われ、関連する委員会と協力して行う必要のあることが確認された。

6 英文機関誌編集委員会の報告

溝口理事から、①『Japanese Journal of Archaeology』（以下、JJA）刊行に関わる科学研究費補助金について、対象となる募集要項が大幅に改定されたことから来年度の申請は見合わせ、補助金で対応してきた刊行に関わる費用を協会予算として予算要求書を提出したとの報告があった。続けて、②今年度のJJA刊行における進捗状況、③日本考古学協会賞論文賞の推薦については期日までに委員会で選考を行うことが説明され、了承された。

報告第923号 事業等に関わる後援名義使用の承認について

佐藤副会長から、白滝ジオパーク推進協議会から「International Obsidian Conference Engaru 2023」についての後援（名義）依頼があり、名義の使用を承認したとの報告があり、了承された。

その他

1 安全保障関連三文書の改定への対応について

辻会長から、岩本理事から提出された安全保障関連三文書の改定への対応について、今後意見交換の場を設けることを検討することが説明された。

以 上